

2020年度 茨城県結城看護専門学校 学校評価 自己評価

当校の自己点検は、平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局から「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価項目を設定し、平成29年度から開始した。

平成30年度は、前年度の自己点検で明確になった課題を改善し、各項目の実施状況を「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の4つの視点から質的に評価できる基準に変更した。

また、自己点検に加え、評価プロセスの客観性・透明性を高め、学校運営の改善を図ることを目的に、学校関係の方々から評価を受ける「学校関係者評価」を開始した。

令和元年度に、評価の細項目の重複を見直し整理し、令和2年度は同様の項目で自己点検・自己評価を実施した。昨年度との変化と取り組み、課題を分析し報告する。

1 組織体制

学校評価の実務担当として、学校評価委員会を設置している。また、学校評価に関する実施要綱を定めている。

2 自己点検・自己評価

対象：教職員 12名（学校長除く） 内訳：事務職員2名、教員10名

調査期間：令和2年12月21日～令和3年1月31日

調査方法：学校内ネットワークを用い、入力フォルダを作成。個人毎のファイルにデータを入力し保存。

他の教職員が開封できないよう、個人毎のパスワードを作成した。

評価基準： 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

評価基準：2・1とした項目は、その理由と改善の提案を記載

有効回答数：100%

3 評価項目

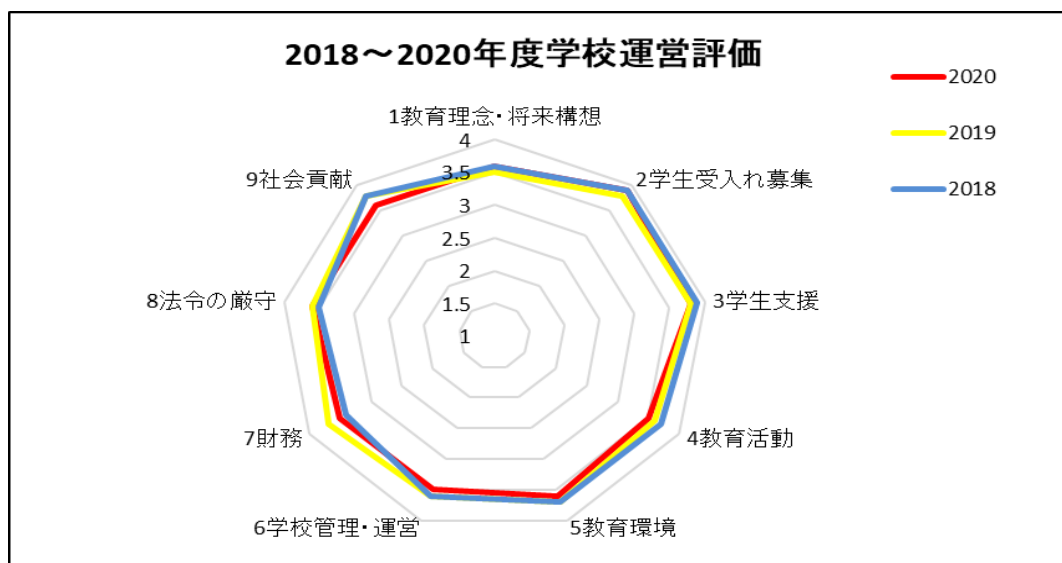
(1) 大・中項目、小項目数

	大項目(9項目)	中項目(20項目)	小項目数(64)	細項目(166)
1	教育理念・目標	1) 教育理念, 目的, 目標の評価	2	4
		2) 将来構想の明確化	1	2
2	学生受け入れ	1) 学生募集の方法	3	7
		2) 入学選抜の方法	1	2
		3) 学生定員の量・質の充足・学生募集評価	2	4
3	学生支援	1) 学業継続の支援	5	13
		2) 社会人の支援	1	1
4	教育活動	1) 教育課程の編成	3	7
		2) 教授・学習評価過程	6	22
		3) 単位管理	1	3
		4) 指導者の確保・育成	5	12
		5) 学修成果	4	10
5	教育環境	1) 教育環境の整備	4	16
		2) 実習施設の整備	2	7
		3) 安全対策	1	2
6	学校管理・運営	1) 学校経営	3	4
		2) 組織管理	7	22
		3) 教職員の育成	2	7
		4) 卒業生の支援	1	3
7	財務	1) 財務・収支	3	6
8	法令の整備	1) 法令・規程の整備	4	8
9	社会貢献	1) 社会・地域貢献	3	3

4 全体評価

(1) 大項目の評価

	令和2年度(2020年度) (2019年度と比較)	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)
1 教育理念・将来構想	3.6(↑)	3.5	3.6
2 学生受入れ募集	3.9(↑)	3.8	3.9
3 学生支援	3.8(→)	3.8	3.9
4 教育活動	3.5(↓)	3.6	3.7
5 教育環境	3.6(↓)	3.7	3.7
6 学校管理・運営	3.5(↓)	3.6	3.6
7 財務	3.5(↓)	3.7	3.4
8 法令の厳守	3.6(→)	3.6	3.5
9 社会貢献	3.6(↓)	3.8	3.8



(2) 今年度の重点目標に関連する評価

評価基準… 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

重点目標	評価項目	R1 評価	R2 評価	
1 新入生の定員及び総定員の確保	1) 学校訪問及び進学ガイダンスを積極的に実施し、高等学校の進路指導担当者と連携を強め、学生確保に勉める。	2-5 学生募集の広報	3.8	4.0↑
	2) ホームページや学校説明会で当校の特色及び魅力を発信し、望ましい入学生像の確保に努める。	2-6 学生募集の活動 2-8 学生定員の量・質的充足	3.9	3.9 3.9→
	3) 教職員及び保護者、カウンセラーと連携し、学業継続に向けた心理的支援を行う。	3-12 学生相談の整備	3.9	3.9→
2 看護師国家試験の全員合格を目指す	1) 各学年の教育進度及び学生の習熟度に応じた国家試験対策を計画し、学力向上を図る。	4-33 資格取得率の向上	3.6	3.9↑
	2) 低学年から学習意識が高まるよう講師や業者と連携し、学力向上に繋がる指導方法及び学習環境の構築のため、計画的に国家試験対策会議を実施する。			
	3) 模擬試験及び学科試験の結果を分析し、弱点克服に向けて教員全員で課題を共有し、全体及び個別に指導する。			
3 教育力の向上	1) クラス運営及び実習指導において、チーム及び教員間で連携し、学生の強みを伸ばし効果的な学生指導を行う。	4-24 教育方法の工夫・研究 4-29 教員の能力開発・向上	3.5 2.9	3.5→ 2.5↓
	2) 外部講師及び臨地実習指導者と連携を密にし、学生が主体的に学ぶことができるよう学習環境を調整し、課題の改善及び指導体制の強化に繋げる。	4-21 授業の計画的遂行・調整 5-42 実習指導体制	3.8 3.7	3.7↓ 3.8↑

重点目標		評価項目	R1 評価	R2 評価
	3) 科学的根拠に基づいた技術指導を強化し、教員の教育力の向上とともに学生の看護実践能力の向上を目指す。	4-34 看護実践力の向上	3.7	3.5↓
	4) 基礎看護技術の演習を実習指導者の協力を得て、講義と実習の学習継続を強化する。	5-42 実習指導体制	3.7	3.8↑
	5) カリキュラム改正の主旨を踏まえ、地域の特性を生かしたカリキュラム構築をする。	4-17 教育課程の立案 4-18 教育課程の効果的編成 4-19 教育課程の点検見直し	3.7 3.5 3.4	3.7→ 3.4↓ 3.6↑
4 県内就業率の維持・向上	1) 学生の能力や適性、志望に応じた進路選択にできるよう段階的にキャリア支援を行う。	3-11 進路・就職の支援体制	3.8	3.7↓
	2) 就職・進学情報コーナーを活用しやすいよう環境を整え、タイムリーに情報を提供する。	4-35 就職率の向上	3.8	3.9↑
5 組織の効率化及び効果的な運営の推進	1) 学校運営上の課題に対して、改善に向けた運営を推進する。	4-19 教育課程の点検・見直し	3.4	3.6↑
	2) 教育上の課題に対してを、改善に向けて業務を推進する。	4-24 教育方法の工夫・研究	3.5	3.5→
	3) 経営意識をもち歳出の削減に努めとともに、エコ活動に取り組む。	6-46 経営意識	3.4	3.3↓
	4) 業務の時間管理を常に意識し、効率かつ効果的に業務を遂行する(会議・時間外業務)	6-47 組織の整備 6-55 教職員の協働意欲	3.6 3.3	3.5↓ 3.2↓

5 評価結果の検証・分析

※ () 内は、2019年度の評価

(1) 教育理念・目標 【自己点検評価：3.6 (3.5)】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
教育理念・目的・目標の評価	3.6 (3.5)	1 教育理念、目的、目標、育成人材像、職業教育の特色の設定	3.7 (3.7)	「育成人材像」と「求める入学生像」を教育課程・募集要項に明記し、共有している。
		2 教育理念・目標・育成人材像の達成状況の点検・評価	3.4 (3.2)	前年度の課題に対して改善策を講じ、適宜実践し、教育目標等に対する達成状況を点検・評価している。
将来構想の明確化	3.6 (3.4)	3 学校の将来構想の明確化	3.6 (3.4)	年度当初に運営方針や重点目標を教職員に周知し、その取り組みに対し中期・年度末に点検し、今後の運営改善に繋いでいる。

○課題 教育目標・重点目標を達成できるよう組織全体で取り組み、運営上の課題改善に繋げる。

○今後の改善方策

教育目標・重点目標等を年度当初・中期・年度末に組織運営及び教育活動状況を点検・評価し、改善に向けたPDCAサイクルを展開する。

(2) 学生受入れ 【自己点検評価：3.9 (3.8)】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学生募集の方法	3.9 (3.9)	1 学習募集の方法	3.8(3.6)	募集要項に「求める入学生像」を明記し、試験の種類・方法を示している。
		2 学生募集の広報	4.0 (3.8)	パンフレット等を毎年見直し、高校生・社会人向けの情報を提供している。
		3 学生募集の活動	3.9(3.9)	高校訪問や進路ガイダンス、模擬授業等に積極的に参加している (2020年106回)。
入学選抜の方法	3.9 (3.8)	1 入学選抜の試験方法	3.9(3.8)	入学試験委員会規定に基づき、入学選抜基準や試験方法を明記し、厳正に取り扱っている。
学生の充足・評価	3.9 (3.8)	1 学生定員の量・質的充足状況	3.9 (3.9)	総定員は120名、現員123名である。総定員の95%(114名)を維持する目標は達成している。学生の休・退学への対策として学生の変化をキャッチし早期に対応している。必要時は学生相談及び保護者との連携体制を強化している。
		1 学生募集・学生受入れに関する評価	3.8 (3.7)	受験者・入学者等の推移を評価し、学生募集や入学試験の方法を見直し、改善に努めている。

○課題 学生募集及び学生支援プロセスを評価し、学生定員の充足を図る。

○今後の改善方策

- 1 学生募集状況及び試験結果から、募集活動や入学選抜方法を見直し、改善を図る。
- 2 学生の生活・学習状況の変化をキャッチし、早期から保護者・カウンセラーと連携し、学業継続できるよう支援する。

(3) 学生支援 【自己点検評価：3.8 (3.8)】

中項目	評価	小項目		評価	根拠
学業継続の支援	3.8 (3.8)	1	健康管理	3.9(3.7)	今年度は、新型コロナ感染防止の対策を強化した。新たに健康チェックシートや対応マニュアル作成した。また、健診後のフォロー健診や保健指導を行い、健康な学校生活を送れるよう学校医との連携を強化して実施した。B型肝炎ワクチン接種を1・2年生全員に実施するよう体制を整えた。
		2	進路・就職の支援	3.7(3.8)	就職説明会を年度末に実施した。就職・進路情報コーナーを整備し、学生からの相談は担任・教務主任がタイムリーに個別対応している。
		3	学生相談の整備	3.9(3.9)	学生相談日は時間割に明記し、計画しやすいよう工夫している。担任は学生と適宜面談し、カウンセラーや保護者と連携しながら支援体制を強化している。昨年度より学生相談件数は増加。継続的に相談する学生も増えた。
		4	自治会・課外活動の支援	3.8 (3.9)	自治会の活動を支援している。新型コロナの影響で自治会活動に制限があった。
		5	保護者との連携	4.0(3.9)	各学年とも学習継続に困難を生じている学生の保護者との連絡を密に連携を図っている。必要時は親子面談を実施している。年3回の授業参観を実施し、看護学校の学習を理解してもらおう機会を設けている。
社会人の支援	3.9 (3.9)	1	社会人入学者の認定制度・経済支援	3.8 (3.9)	大学等の既修得単位の認定や教育訓練給付金制度を活用し、学費軽減に努めている。学校説明会等で紹介している。制度の更新が終了し継続認定を受けることができた。

○課題

新型コロナ感染対策を積極的に実施し、次年度も学生が心身ともに健康な状態で、学業を継続できるよう支援体制を強化する。

各学年の学習進度や学習状況に合わせて、保護者との面談を計画的に実施し連携を密に実施している。保護者には学校での学習内容の理解を深めてもらい、自宅での学習環境を整えてもらえるよう協力を要請している。

○今後の改善方策

学習学生の心身の変化をキャッチし、保護者やカウンセラー、事務担当者と連携しながら、学業が継続できるよう支援する。

(4) 教育活動 【自己点検評価：3.5 (3.6)】

中項目	評価	小項目		評価	根拠
教育課程の編成	3.5(3.5)	1	教育課程の立案	3.7(3.7)	教育理念、目的、目標、科目及びその内容について、明文化している。令和4年度のカリキュラム改正に向け検討を進めている。
		2	教育課程の効果的編成	3.4(3.5)	科目は学習進度に合わせ、順序立てて編成している。
		3	教育課程の点検・見直し	3.6(3.4)	教育課程の見直しは毎年実施し、科目の重複や不足部分を検討している。
教授・学習の評価過程	3.6(3.6)	1	学習支援ガイダンス	3.9(4.0)	年度初めや実習前にガイダンスを定期的に行っている。授業科目の開始時に担当者が説明している。

中項目	評価	小項目	評価	根拠	
		2	授業の計画的遂行・調整	3.7(3.8)	時間割の進度は授業計画通りに行っている。授業科目担当者や実習指導者には事前に授業内容を説明している。
		3	授業科目の担当・時間	3.3(3.2)	教員一人あたりの授業時間を週15時間以内とし、授業の準備時間を確保するよう学校運営ガイドラインに示されている。講義は規定時間内であるが実習は規定時間を超えている。今年度は学内実習の対応で記録指導・技術指導を教員が指導した。
		4	対象者への実習協力依頼	3.9(3.9)	実習協力に関する対象者への説明は病院側が担っている。今年度は一部の実習のみ臨地で行えた。
		5	教育方法の工夫・研究	3.5(3.5)	学生の主体性を育む授業構成として、基礎看護技術演習の方法を工夫して実施した。オンライン授業へ対応出来るよう準備が急務である。
		6	授業評価	3.5(3.6)	授業評価は内部・外部教員を対象に実施している。教員の自己評価は一部実施できていない。
単位の管理	3.9(3.9)	1	成績評価, 単位認定 進級・卒業判定	3.9(3.9)	単位認定できる科目内容を明記している。単位認定会議規程に基づき、実施している。
指導者の確保・育成	3.1(3.3)	1	人材確保, 組織編成	3.4(3.7)	新人教員の割合が高いため、新人は実習指導を中心に、中堅はクラス運営を中心にチームを編成しているが、今年度は全教員で学内実習指導を担当し各教員が過重となった。
		2	教員の能力開発・向上	2.5(2.9)	新型コロナ感染のため研修会・学会参加はほぼ出来ず、オンライン研修一部のみであった。学内実習の検討やカリキュラム改正の検討により教育力の向上に繋げたい。
		3	学級運営	3.5(3.4)	学生の個性や自主性を認め、クラスの凝集性が高まるよう担任・副担任で支援している。
		4	危機管理・教育	3.3(3.6)	防災・消防訓練、個人情報等の危機管理教育を毎年行っていたが、今年度は実施できなかった。
		5	地域の教育ニーズへの協力	3.3(3.8)	例年、教員による出前講座や小・中学生向けの命の授業・性教育を行っていたが、外出自粛のため実施せず。
学修成果	3.7(3.6)	1	資格取得率の向上	3.9(3.6)	国家試験対策は1年次から年間計画に基づき、段階的に進めている。
		2	看護実践能力の向上	3.5(3.7)	学生の看護技術力向上を目指し、演習方法を工夫し、放課後に、教員が指導に当たっている。
		3	就職率の向上	3.9(3.8)	県内就業・進学、県西地域への就業者は例年と同様90%。卒業生全員が就職・進学できた。進学先は県内助産学科である。
		4	卒業生のキャリア支援	3.2(3.1)	例年卒業者が来校し、仕事のことやキャリアアップに関すること等、教員に相談している。

参考：看護学校養成所の運営に関する指導ガイドライン「教員の週授業時間数15時間以内及び実習指導3時間に対して1時間の準備時間を確保する」と規定

○課題

- 1 「看護学校養成所の運営に関する指導ガイドライン」に準拠し、教員の学生指導への準備時間を確保し、教育力を向上させる。
- 2 校内OJTの実施及びキャリア支援に繋がる教員の育成に努める。

○今後の改善方策

- 1 実習指導時間に関する規定を準拠するために、実習施設に教頭及び教務主任より主旨を説明し、指導体制を強化して頂けるよう協力を依頼する。
- 2 校内でのOJTを通して、新人・中堅教員を育成し、教育プログラムの充実を図る。

(5) 教育環境 【自己点検評価：3.7 (3.6)】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
教育環境の整備	3.6(3.7)	1 校舎の整備	3.6(3.6)	必要な教材は計画的に予算化している。
		2 福利厚生	3.7(3.8)	学生が自習できる図書室やゼミ室を整備している。エコ対策を考慮しながら暖房・冷房設備を整備した。今年度から週3日昼食時にお弁当販売が開始された。
		3 図書室の整備・管理	3.7(3.7)	図書は計画的に予算化し、整備している。個人学習スペースを増設した。司書を配置し図書室の整備・管理している。
		4 教材の整備・管理	3.5(3.5)	学内実習に対応するため視聴覚教材を追加で購入した。また演習で使用する物品をレンタルで対応し最新の器機で学内演習している。
実習施設の整備	3.7(3.7)	1 実習施設の整備	3.7(3.8)	実習に必要な討議室・図書・看護用具を整備している。
		2 実習指導体制	3.8(3.7)	実習指導者は1病棟に2名以上配置するよう規定されているため、計画的に育成している。
安全対策	3.0(3.7)	1 防災・安全教育	3.0(3.7)	学校・地域の防災教育に参加している。今年度は実施していないため参加もできていない。

○課題

コロナ禍におけるオンライン授業の導入に対し、学生の家庭の学習環境の調査を実施。校内のWi-Fiの通信環境の充実に向けて年度内に改善できるよう対応し、令和3年度から環境が整った。今後オンライン授業に対応に対する外部講師や学生のニーズに対応できるよう体制を整える。

実習の代替実習(学内実習)が増えることにより、利用できる教室環境を整える必要性が急務となった。

夏季・冬季の冷・暖房でのコスト意識を継続しながら、学習環境が整えられるよう対応していく。

実習施設の教材や物品の充実を進めていく。

○今後の改善方策

- 1 既存の校舎内の教室を効率的に利用できるよう、具体的に計画し予算化及び整備する。
- 2 実習施設の教材や物品が充実できるよう、必要物品を洗い出し予算化していく。

(6) 学校管理・運営 【自己点検評価：3.5 (3.6)】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学校経営	3.5 (3.6)	1 運営方針の策定	3.7(3.6)	運営方針を策定し、年度当初に内容を教職員全員共有している。
		2 事業計画の策定	3.6(3.7)	運営方針を基に事業計画を作成し、それに伴う予算措置を講じている。事業計画の執行状況を報告し、教職員に周知している。
		3 経営意識	3.3(3.4)	教職員は事業の効率・効果性を追求し、業務を遂行している。
組織管理	3.6 (3.7)	1 組織の整備	3.5(3.6)	組織図は教職員の配置及び命令系統に沿った役割が明確になっている。
		2 教員・講師の要件	3.7(3.9)	教員・非常勤講師の資格要件を満たしている。
		3 危機管理	3.4(3.7)	防災・消防訓練、情報管理の安全教育を毎年実施しているが、今年度は出来なかった。
		4 学籍の管理	3.8(3.7)	電子媒体及び紙面上で一括管理している。
		5 教職員の職務分掌	3.4(3.7)	職務分掌に則り、その役割を遂行している。
		6 会議運営	3.9(3.7)	会議規定に則り、適切に運営している。
		7 データ管理	3.8(3.8)	データを資料にまとめ、事業の基本資料として活用している。
教職員の育成	3.0 (3.1)	1 目標管理制度, 研修・研究活動	3.0(3.1)	管理者は年度初め・中間・年度末に個人面談を行い、目標管理に関する助言・指導を行っている。また必要時はキャリア支援や研究活動を助言している。
		2 教職員の協働意欲	3.2(3.3)	実習指導・クラス運営チームは各々課題を共有し改善に取り組んでいる。チーム間の連携は教員会議を活用している。

中項目	評価	小項目	評価	根拠
卒業生への支援	3.6(3.8)	1 卒業生への支援	3.6(3.8)	卒業生は現況報告や、再就業先の相談等の相談を求めて来校することが多い。教員は時間を空け、卒業生の話をしつくり聞いている。

○課題

- 1 教職員は業務の効率・効果性を追求した経営意識を高める。
- 2 教職員の目標達成及びキャリアアップに繋がる教育体制を強化する。

○今後の改善方策

- 1 業務報告会の結果、明確になった課題を教職員で共有し、改善に向けて組織全体で取り組む。
- 2 定期面談やOJTを通し、人材を育成するとともにキャリア支援を行う。

(7) 財務 【自己点検評価：3.7 (3.6)】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
財務・収支	3.6(3.7)	1 中長期的な財務基盤の安定	3.5(3.7)	学生定員の充足率の推移を把握し、中期的な財政安定を目指し、授業料改正を実施した。
		2 予算の適切な執行状況	3.6(3.6)	予算の執行に関して、チェック体制が整備され、適切に会計処理されている。
		3 会計監査、財務情報の公開	3.7(3.8)	会計監査の結果報告や財務情報に関して公開している。

○課題 財務状況や予算の執行状況については、年度当初に報告を実施しているが、教職員が十分に理解・把握していない状況がある。

○今後の改善方策

教員も財政への意識を持ち、学校経営への参画が求められるため、財務状況や予算の執行状況について、継続して年度当初及び中間期に事務長から教職員に説明をし、共有を図りたい。

(8) 法令の整備 【自己点検評価：3.6 (3.6)】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
法令・規程の整備・運営	3.6(3.6)	1 法令、専修学校設置基準等の整備、適正な運営	3.5(3.6)	学校運営に必要な諸規定を整備している。申請・届出は遅滞なく提出している。
		2 個人情報に関する規程の整備	3.5(3.5)	規程は点検・整備している。
		3 自己評価の実施、結果の実施	3.8(3.8)	自己評価を実施し公表している。
		4 教育情報の情報提供	3.8(3.7)	学校情報はデータ化しホームページに公表している。

○課題 諸規定・マニュアルの精度を高める。

○今後の改善方策

諸規定・マニュアルを毎年点検し、内容を充実させる。また必要時は規定を追加する。

(9) 社会貢献 【自己点検評価：3.8 (3.7)】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
社会貢献 地域貢献	3.7(3.8)	1 学校の教育資源・施設の活用	3.7(3.6)	地域の公開講座や小中学校の講師として活動している。今年度は実施できなかった。
		2 地域交流の奨励・支援ボランティア活動	3.6(4.0)	学生は地域の行事・ボランティアは積極的に活動している。今年度は新型コロナ感染防止のため実施できなかった。
		3 職業意識の涵養	3.9(3.9)	高校生に向けた進学ガイダンスに参加して職業教育に参加し、職業意識の涵養に努めている。

○課題 地域・施設の関連施設及びニーズに応じて、看護学校の教育資源を活用してもらう必要性は感じている。

○今後の改善方策 地域の施設と連携し、看護学校の教育資源を提供する。

6 外部アンケートの実施及び評価

1) 実習指導者対象の公開授業

○ねらい：実習指導者から実践的な意見や評価を受けることにより授業改善を図るとともに、教員の看護実践能力及び教育実践能力の向上を目指す。

○授業内容：看護技術演習 12項目

○授業計画：7月～1月

	月 日	曜日	時 間	内 容	担当教員	見学者数
1	7月9日	木	13:30～15:55	バイタルサインの測定	木村	0名
2	7月20日	月	13:30～16:40	洗髪	川那子	0名
3	8月20日	木	13:30～16:40	全身清拭と寝衣交換	川那子	1名
4	9月3日	木	13:30～15:00	便器・尿器の介助	池田	2名
5	9月10日	木	13:30～15:00	陰部洗浄・おむつ交換	安見	2名
6	9月16日	水	13:30～15:00	経管栄養法	廣沢	2名
7	10月5日	月	13:30～15:00	浣腸	赤石	2名
8	10月21日	水	13:30～15:55	フィジカルアセスメント	木村	4名
9	10月28日	水	13:30～15:55	一時的導尿	赤石	0名
10	11月13日	金	13:30～15:55	静脈血採血	青木	2名
11	12月23日	水	13:30～16:40	筋肉内注射	青木	1名
12	1月21日	木	13:30～16:40	点滴静脈注射	青木	日程変更

延べ 16名(2施設) 参加

対象施設：14施設

	施設	施設数
病院	城西病院, 結城病院, 友愛記念病院, 古河赤十字病院, 茨城西南医療センター病院, 下館病院, 茨城県西部メディカルセンター	7病院
老健・老福施設	介護老健保健施設すばる, 特別養護老人ホームしらとり	2施設
訪問看護ステーション	愛美園・春風・ゆいナースステーション・筑西診療所訪問看護ステーション	4施設
他	結城市健康増進センター	1施設

○参加理由

理 由	人 数
①看護基礎教育で行われている学習（演習）に興味があった。	14
②今後の学生指導に活かしたいと思った。	15
③学生のレディネスを把握したかった。	6
④自分の看護技術を振り返る機会にしたかった。（自分自身の能力向上のため）	6
⑤上司に勧められたため。	1
⑥その他	1(委員会勧め)

○授業評価

	4 当てはまる	3 やや当て はまる	2 やや当て はまらない	1 当ては まらない
①演習の時間配分は適切だった。	11	5	0	0
③演習は学生の反応をみながら進められていた。	14	2	0	0
④資料（チェックリスト）は実習にも活用できるものだった。	13	3	0	0
⑤学生は演習に真剣に（積極的に）参加していた。	14	2	0	0
⑥演習は臨地実習指導に役立つ内容だった。	13	3	0	0

・意見を出し合いながら工夫したり修正したりして良かった（便器・尿器介助）

・学生さんが生き生きしている姿が見れました。病院実習も楽しんでもらえるようサポートしたいです。（便器・尿器介助）

- ・グループ間の雰囲気がとてもよかったです。助け合いながら演習が行われていました（経管栄養）
- ・学生自身で問題点などについて話し合いながら演習をすすめており、教員の方々がポイント(根拠) についてアドバイスを入れると有意義な演習になっていたと思う（静脈血採血）
- ・学生5～6人に対して教員がついて演習できるのが良かったと思う。演習内容+αの部分がとても勉強になりました（静脈血採血）
- ・演習途中で振り返りを行うことで次の学生の時に活かすことが出来ていた。お互い出来ている所、出来なかった所を声かけ出来ていたので良かったと思う。（筋肉内注射）

※今年度の基礎看護技術演習では、学生の主体性を育てる為、これまで演習の時間で実施していた教員のデモンストラーションを行わず、学生が看護技術を予習して演習に臨む形式をとった。授業方法について（演習前の授業で学んだ事を踏まえ、DVDや教科書を利用して学生同士で練習をして演習に臨む）肯定的なご意見を頂けた。

※看護技術演習に指導者が参加することで、看護技術の学習ステップを把握し臨地実習指導に役立てたいと考えて頂けた。

○公開授業への要望

- ・全員がよい企画であると回答していた。
- ・その根拠として、看護基礎教育の現状を把握することで病院でも一貫した実習指導に活用できること、また卒業後の新人教育に活用したいと積極的なご意見も頂いた。
- ・今後の公開授業への要望として、「看護過程」が挙げられた。

2) 1年生の保護者対象の授業参観

○ねらい

看護基礎教育における授業を保護者に公開することで、看護の学習への理解を深め、家庭と学校の連携した学習支援の協力を得る機会とする。

○授業計画及び結果

月日	授業内容	担当教員	参加人数
7月9日(木)	看護の基本となる技術I (バイタルサイン測定：看護技術演習)	木村	10名
11月30日(月)	看護学概論 (看護と社会：看護師のキャリア形成)	川那子	3名
2月15日(月)	老年看護学概論 (高齢者を取り巻く社会制度：高齢者の取り巻くサポートin結城)	赤石	1名

○参加理由（複数回答）

理由	人数
①看護師養成所で行われている教育に興味があった。	6
②どんな内容の学習をしているのか知りたいと思った。	11
③授業風景を見てみたかった。（自身の学習態度を見てみたかった。）	10
④看護師養成所の授業の雰囲気を味わいたかった。	3
⑤家族（子どもや配偶者等）に参加を勧められた。	1

○授業評価

- ・今年度は看護技術演習の公開授業を計画したところ、10名の参加があり、保護者の関心も高いことが分かった。
- ・授業内容が「わかりやすかった」という意見が多かった。
- ・授業参観はよい企画であり、今後も時間が合えば参加したいと好印象であった。
- ・授業終了後の担任と面談の時間をとり、日頃の学習状況を伝える場としても有効である。

7 まとめ

新型コロナ感染の拡大により、感染拡大防止のため授業方法の変更や学内実習への変更など学校運営にも大きな影響を受けた。教職員でさまざまな方法を思案し学生の学修保障を第一考え対応した結果、今年度の学校の運営状況は全体的に「ほぼ適切」から「適切」であった。

昨年度の課題であった「教職員の育成」については、今年度評価では改善がみられた。今後はOJT教育プログラムを見直し、教員の育成を強化していく。